

岩見沢市病院事業経営強化プラン実施状況 点検・評価報告

(令和5年度)

岩見沢市病院事業経営強化プランは、令和4年3月に国が示した「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、市立総合病院及び市立栗沢病院が、将来の人口動態や地域の医療需要を踏まえ、継続して安定した医療を提供していくための取組みを、令和5年度から令和9年度までの5か年の計画として策定したものです。

本プランでは、毎年度、実施状況について点検・評価を行い、市民の皆さんに公表することとしています。

令和5年度の実施状況及び決算による経常収支比率、医業収支比率等の数値目標の点検・評価について、次のとおりご報告いたします。

I 総合病院

1 令和5年度の現状

ア 職員数(各年度4月1日現在)

	医師	看護師	薬剤師・ 医療技術職	事務職	その他の職	合計
令和5年度	52人	327人	92人	31人	10人	512人
令和6年度	51人	331人	100人	35人	17人	534人

※会計年度任用職員は含まない。

イ 患者数(実績)

	令和4年度	令和5年度	差 引	増減率
入院患者数	99,593人	97,343人	▲2,250人	97.7%
外来患者数	181,886人	170,476人	▲11,410人	93.7%

2 経営強化に向けた取組みの実施状況

項目／方法・内容等	実施状況(令和5年度)
(1)役割・機能の最適化と連携の強化	
ア 果たすべき役割・機能	
・南空知医療圏における地域センター病院として救急医療や急性期医療のほか、小児・周産期や精神、人工透析など専門医療や災害拠点病院、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たす。 ・精神医療は、身体合併症などの救急搬送患者や医療資源投入量の多い急性期患者への対応を強化する。また、多職種連携のもと患者の回復に向けたシームレスな治療の提供を行う。	・救急搬送件数 5,249 件中、精神神経科 23 件の対応を行い、症状の緩和、心理的支援等迅速な治療に努めた。

イ 地域包括ケアシステムの構築に向けて	
・地域の医療・介護施設等と連携を図り、転院や施設入所に関する退院時の支援や、在宅医療や福祉制度等に関する相談機能の充実を図る。	・介護を必要とする患者に対して、円滑に介護保険サービス等に繋がるよう、申請手続きに関する説明を行っている。
ウ 機能分化・連携強化	
・二次救急医療や急性期医療を中心とする医療提供とともに、圏域内の医療機関等との連携強化を図る。 ・急性期機能の維持・強化のため、新病院整備の取組みとあわせ、労災病院との早期経営統合による医療資源の集約化に向けた検討を進める。	・近隣病院を訪問し相互の意識の共有を図った。 ・労災病院との早期経営統合に向け、検討を始めた。
エ 一般会計負担の考え方	
・独立採算が原則の地方公営企業だが、経営に伴う収入で充てることが適当でない経費や困難であると認められる経費等については、総務省が示す繰出基準に基づいて一般会計等が負担する。	・経営状況や新病院の整備状況に応じ、繰出基準に基づいて、市の財政課と都度協議を継続する。
オ 住民の理解のための取組み	
・広報誌やホームページなどによる情報発信に積極的に取り組む。	・面会制限、ワクチン接種、職員採用などのお知らせを随時ホームページで実施した。また、新病院建設に係る情報発信はホームページのほか広報誌でも実施した。
(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革	
ア 医師・看護師等の確保	
・適正数確保を目標とした定員管理を行う。 ・新病院に向け、労災病院職員の意向調査を踏まえた採用計画を策定する。 ・院内保育園の活用や柔軟な勤務形態の導入等により、働きやすい環境の整備を行い、医療スタッフの離職防止等に努める。	・労災病院職員の意向調査を実施した。 ・院内保育園を活用し、医療スタッフの離職防止に努めた。(R5.4月 園児 32名)
【医師】 ・医育大学への派遣要請の継続 ・医師事務作業補助者の配置等による負担軽減	・医育大学への派遣要請を実施した。 ・医師事務作業補助者の賃上げを行い、継続的に募集した。また、研修受講によりスキルアップを図り、医師の負担軽減に努めた。
【看護師】 ・市立高等看護学院による養成 ・修学資金貸与制度の充実 ・専門性の高い認定看護師の増員	・管内の高校への働きかけや推薦枠の拡大による学生の確保に努めた。 ・修学資金貸与学生数の増員や貸与金額の増額をし、看護師の確保に努めた。 (R5 貸与人数 76名) ・認定看護師の資格取得資金を貸与し、認定看護師の増員を図った。 (R5 1名増加)

イ 臨床研修医の受入れ等		
	・基幹型臨床研修病院として臨床研修プログラムや指導医の充実、学会やカンファレンス等への参加機会の確保等、ICT 環境の充実を図る。	・R5 研修医 4 名 ・臨床研修病院合同プレゼンに参加 (R5 来訪者 21 名)
ウ 働き方改革への対応		
	・出退勤システムの本格稼働による適切な労務管理、医師事務作業補助者の活用や各コメディカルの業務範囲の拡大を生かしたタスクシフトの検討を進める。 ・電子カルテをはじめとする情報システムを活用しながら、Web による会議等の開催・参加など ICT 環境を整備、多様な働き方へ対応可能な組織体制を構築する。	・出退勤システムの本格稼働に向けて各種メニューの検証を進めた。 ・勤務医の負担軽減のため、大学病院等からの出張医確保のほか、看護師、臨床検査技師によるタスクシフトの取組みを行った。 ・看護師の負担軽減のため、透析患者の薬剤管理を薬剤師が実施。また、委託業者による内科窓口業務配置を 1 名増員したほか、入院セットを導入した。
(3)新興感染症に備えた平時からの取組み		
	・第二種感染症指定医療機関として平時から検査実施体制や診療体制の整備に努める。 ・通常の診療体制確保と並行して新興感染症患者の受入れに必要な病床確保ができるよう、各種マニュアルなどの感染防止策を徹底する。 ・状況に応じた病院としての対応基準を明確化することで、圏域における医療提供体制の逼迫を回避する。 ・感染管理の専門的知識を有する職員の育成、研修を通じた知識・技術の向上を図る。 ・物資について調達不足による医療の停滞を招かないよう適切な在庫管理を行う。	・新型コロナウイルス感染症の「5類」移行に伴う運用変更、マニュアル改定などの対応を行った。 ・感染対策向上加算を取得している近隣の医療機関と岩見沢保健所を交えて定期的なカンファレンスや年1回の感染に関する合同訓練を開催した。 ・全職員を対象とした院内感染対策講習会を実施した。
(4)施設・設備の最適化		
ア 新病院整備		
	・ライフサイクルコストの最適化を図り、将来に過大な負担を残さない施設整備に努める。 ・開院時に医療機器の整備を集中的に整備すると将来の更新が重なることから調達時期を平準化する。	・新病院の整備に向け、「基本設計」を取りまとめた。
イ デジタル化への対応		
	・AI 技術や ICT/IoT の活用により幅広い分野で院内DXを推進し、セキュリティを確保したうえで対応可能な業務についてはオンライン化を積極的に導入する。 ・情報セキュリティ対策として、情報漏洩防止、サイバー攻撃への対応など、脅威のレベルに応じた体制を整備する。	・情報漏洩対策として、電算室の入退室管理、データ移動の際の履歴管理を行い、サイバー攻撃リスクを低減するため、リモート接続環境の見直しを行い、接続するためのセキュリティレベルを引き上げた。

3 数値目標の実績

ア 経営指標に係る数値目標

① 収支改善に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
経常収支比率(%)	100.1	91.8	91.3	▲0.5	99.5%	B	
医業収支比率(%)	89.2	89.4	88.4	▲1.0	98.9%	B	
修正医業収支比率(%)	86.8	86.6	85.6	▲1.0	98.8%	B	

※修正医業収支比率＝(医業収益－他会計負担金)／医業費用×100%

② 収入確保に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
1日あたり入院患者数(人)	272.9	270.7	266.0	▲4.7	98.3%	B	
1日あたり外来患者数(人)	748.5	712.9	701.5	▲11.4	98.4%	B	
病床利用率(%)	56.4	55.9	55.0	▲0.9	98.4%	B	
入院患者1人1日あたり診療収入(円)	47,084	49,778	49,019	▲759	98.5%	B	
外来患者1人1日あたり診療収入(円)	26,452	27,970	27,570	▲400	98.6%	B	

③ 費用削減に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
職員給与費対医業収益比率(%)	50.5	52.1	52.7	0.6	98.9%	B	※
材料費対医業収益比率(%)	35.4	34.2	34.7	0.5	98.6%	B	※
委託費対医業収益比率(%)	9.2	9.1	9.4	0.3	96.8%	B	※

※実績が低い方がよい項目

イ 医療機能等指標に係る数値目標

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
救急患者数(人)	4,600	5,150	5,249	99	101.9%	A	
手術件数(件)	1,639	1,770	1,786	16	100.9%	A	
リハビリ件数(件)	56,719	59,800	58,212	▲1,588	97.3%	B	
臨床研修医受入数(人)	4	4	4	0	100.0%	A	

〔数値目標の評価基準〕

「A」:達成率 100%以上(目標を達成した。)

「B」:達成率 80%以上 100%未満(目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要である。)

「C」:達成率 80%未満(目標を達成しておらず、改善が必要である。)

4 収支計画の実施状況

ア 収益的収支(税抜)

(単位:百万円)

区 分		年 度	令和 4 年度	令和 5 年度		差
			実 績	見 込 ①	実 績 ②	②-①
収 入	1. 医業収益 a		9,974	10,297	10,002	▲295
	(1) 料金収入		9,501	9,764	9,472	▲292
	(2) その他		474	533	530	▲3
	うち他会計負担金 b		270	327	324	▲3
	2. 医業外収益		1,923	938	966	28
	(1) 他会計負担金・補助金		539	563	566	3
	(2) 国(道)補助金		1,215	219	235	16
	(3) 長期前受金戻入		58	58	59	1
	(4) その他		111	97	106	9
	経常収益 (A)		11,897	11,235	10,968	▲267
支 出	1. 医業費用 c		11,185	11,519	11,309	▲210
	(1) 職員給与費		5,033	5,361	5,297	▲64
	(2) 材料費		3,535	3,524	3,469	▲55
	(3) 経費		1,989	2,123	2,046	▲77
	(4) 減価償却費		591	467	459	▲8
	(5) その他		38	44	38	▲6
	2. 医業外費用		695	722	702	▲20
	(1) 支払利息		28	25	25	0
	(2) その他		668	696	677	▲19
	経常費用 (B)		11,881	12,241	12,011	▲230
経常損益(A) - (B) = (C)			16	▲1,006	▲1,043	▲37
特 別 損 益	1. 特別利益 (D)		-	-	-	-
	2. 特別損失 (E)		3	13	8	▲5
	特別損益(D) - (E) = (F)		▲3	▲13	▲8	5
純損益(C) + (F)			13	▲1,019	▲1,051	▲32

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
累積欠損金		1,614	2,6032	2,671	39
資 金 不 足 額	流動資産（ア）	5,571	4,428	4,321	▲107
	流動負債（イ）	1,586	1,433	1,360	▲73
	うち一時借入金	－	－	－	－
	差引(ウ)＝(イ)－(ア)	▲3,985	▲2,994	▲2,961	33
経常収支比率(A)/(B)×100 ※		100.1%	91.8%	91.3%	▲0.5%
医業収支比率 a / c ×100 ※		89.2%	89.4%	88.4%	▲1.0%
修正医業収支比率 a - b / c ×100 ※		86.8%	86.6%	85.6%	▲1.0%

※再掲

イ 資本的収支

(単位:百万円)

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
収 入	1. 企業債	222	372	319	▲53
	2. 他会計負担金	－	－	－	－
	3. 国(道)補助金	5	97	90	▲7
	4. その他	2	0	0	0
	収入計(A)	228	469	409	▲60
支 出	1. 建設改良費	313	689	662	▲27
	2. 企業債償還金	515	378	378	0
	3. その他	11	55	55	0
	支出計(B)	839	1,122	1,095	▲27
差引不足額 (B)－(A)		611	653	686	33

ウ 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
収益的収支		880	890	890	0
資本的収支		－	－	－	－
合 計		880	890	890	0

Ⅱ 栗沢病院

1 令和 5 年度の現状

ア 職員数(各年度 4 月 1 日現在)

	医師	看護師	薬剤師・ 医療技術職	事務職	その他の職	合計
令和 5 年度	2 人	24 人	4 人	3 人	－	33 人
令和 6 年度	1 人	33 人	6 人	2 人	－	42 人

※会計年度任用職員は含まない。

イ 患者数(実績)

	令和 4 年度	令和 5 年度	差 引	増減率
入院患者数	15,147 人	21,679 人	6,532 人	143.1%
外来患者数	11,112 人	11,537 人	425 人	103.8%

2 経営強化に向けた取組みの実施状況

項目／方法・内容等	実施状況(令和 5 年度)
(1)役割・機能の最適化と連携の強化	
ア 果たすべき役割・機能	
・南空知医療圏における慢性期を中心とした医療を提供する。急性期治療を終えた患者の受入れや在宅・施設へのシームレスな復帰を促す機能を担う。	・積極的な入院患者の受入れにより、年間入院患者数の増加に繋がった。
イ 地域包括ケアシステムの構築に向けて	
・総合病院との密な連携のもと、地域の医療・介護施設等と連携を図り、南空知医療圏の慢性期医療を支える病院としての役割を果たす。	・地域の介護施設等と連携を図り、慢性期医療を必要とする方の入退院や受診等の調整を図った。
ウ 機能分化・連携強化	
・長期療養・慢性期機能を中心とする。 ・在宅や居住施設への復帰を目指し、診療科にとられない幅広い分野で組織横断的な総合診療を実践する。 ・かかりつけ医や地域の連携病院との機能分担を明確にして円滑な連携を推進、高齢化の進展を踏まえ、地域住民の医療ニーズに対しバランスの取れた医療提供体制を確保する。	・総合病院との連携のもと、急性期医療を終えた患者の受入れを推進し、慢性期医療機関としての機能を十分に果たせた。 ・年間 52 人の在宅・施設への復帰に繋がった。
エ 一般会計負担の考え方	
・総務省が示す繰出基準をもとに、病院の経営状況と一般会計の収支状況等を勘案する。	・経営状況に応じ、繰出基準に基づいて、市の財政課と都度協議を継続する。
オ 住民の理解のための取組み	
・広報誌やホームページなどによる情報発信に積極的に取り組む。	・ホームページをリニューアルし、分かりやすい情報発信に努めた。

(2)医師・看護師等の確保と働き方改革		
ア 医師・看護師等の確保		
・業務の重点化や合理化を推進し、適正配置を図る。 ・医師・看護師等の処遇改善に努めながら、医療スタッフの離職防止等に努める。		・患者数の増加に伴う負担軽減のため、看護師等の増員を図った。(看護師:24人→33人)
【医師】 ・医師の勤務環境の改善を図る。 ・総合病院との連携を強化する。		・総合病院や北海道大学病院等と調整により当直医師を確保し、医師当直業務の負担軽減を図った。
【看護師】 ・介護福祉士や看護補助者を採用し業務負担を軽減		・年間を通じ介護員や看護助手の募集に努め、介護員1名の増員を図った。
イ 働き方改革への対応		
・医師事務作業補助者の活用や各コメディカル業務範囲の拡大を生かしたタスクシフトの検討を進める。 ・情報システムの導入を推進するとともに、可能な範囲でICT環境を整備する。		・一部医師業務のコメディカルへのタスクシフトに向け調整中であり、今後も継続して検討を進める。
(3)新興感染症に備えた平時からの取組み		
・平時から診療体制の整備とワクチン接種等の地域ニーズに対応できる体制構築に努める。 ・状況に応じた病院としての対応基準を明確化することで、圏域における医療提供体制の逼迫を回避する。 ・感染管理の専門的知識を有する職員の育成、研修を通じた知識・技術の向上を図る。 ・物資について調達不足による医療の停滞を招かないよう適切な在庫管理を行う。		・近隣施設の利用者や職員等への新型コロナワクチン接種の手順・体制を構築し、計画的に接種を実施した。 ・毎月、感染対策に関する院内会議を実施し、院内での情報共有を図った。
(4)施設・設備の最適化		
ア 建物・設備・医療機器・情報システム		
・インフラの遮断が人命に関わることから安全性・信頼性の確保を基本とし、効率性・経済性にも考慮する。 ・現有の機器・備品等について、可能な限り長期間の使用が可能となるよう適切な保守・点検の実施に努める。また、医療機器の将来の更新が集中しないよう調達時期を分散せる。 ・総合病院と栗沢病院で患者情報や診療情報を連携できるシステム構築を検討する。		・施設の老朽化に伴う破損箇所等の点検を行い、優先度に応じた修繕を実施するなど、施設安全性の確保を図った。
イ デジタル化への対応		
・幅広い分野で院内DXを推進し、セキュリティを確保したうえで対応可能な業務についてはオンライン化を積極的に導入する。 ・病院経営への情報セキュリティリスクに対して、脅威のレベルに応じた体制を整備する。		・eラーニングによる研修会の受講により職員のセキュリティ対策レベルの向上に努めた。

3 数値目標の実績

ア 経営指標に係る数値目標

① 収支改善に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
経常収支比率(%)	74.6	87.1	89.8	2.7	103.1%	A	
医業収支比率(%)	60.2	77.8	78.9	1.1	101.4%	A	
修正医業収支比率(%)	53.9	68.8	71.5	2.7	103.9%	A	

※修正医業収支比率＝(医業収益－他会計負担金)／医業費用×100%

② 経費削減に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
1日あたり入院患者数(人)	41.5	57.6	59.2	1.6	102.8%	A	
1日あたり外来患者数(人)	45.7	45.2	47.5	2.3	105.1%	A	
病床利用率(%)	48.8	67.8	69.7	1.9	102.8%	A	
入院患者1人1日あたり診療収入(円)	16,189	19,117	19,137	20	100.1%	A	
外来患者1人1日あたり診療収入(円)	11,216	11,555	11,425	▲130	98.9%	B	

③ 費用削減に係るもの

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
職員給与費対医業収益比率(%)	105.7	77.2	74.7	▲2.5	103.3%	A	※
材料費対医業収益比率(%)	21.9	21.4	22.2	0.8	96.4%	B	※
委託費対医業収益比率(%)	14.4	11.1	11.0	▲0.1	100.9%	A	※

※実績が低い方がよい項目

イ 医療機能等指標に係る数値目標

	R4 実績	R5 見込	R5 実績	比較	達成率	評価	適用
救急患者数(人)	102	110	118	8	107.3%	A	
リハビリ件数(件)	1,079	1,700	2,046	346	120.4%	A	

〔数値目標の評価基準〕

「A」:達成率 100%以上(目標を達成した。)

「B」:達成率 80%以上 100%未満(目標を概ね達成したが、より一層の取組が必要である。)

「C」:達成率 80%未満(目標を達成しておらず、改善が必要である。)

4 収支計画の実施状況

ア 収益的収支(税抜)

(単位:百万円)

区 分		年 度	令和 4 年度	令和 5 年度		差
			実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
収 入	1. 医業収益 a		440	617	623	6
	(1) 料金収入		370	529	547	18
	(2) その他		70	88	76	▲12
	うち他会計負担金 b		46	71	59	▲12
	2. 医業外収益		125	100	114	14
	(1) 他会計負担金・補助金		114	89	102	13
	(2) 国(道)補助金		3	1	1	0
	(3) 長期前受金戻入		4	3	3	0
	(4) その他		4	7	8	1
	経常収益 (A)		565	717	737	20
支 出	1. 医業費用 c		731	793	790	▲3
	(1) 職員給与費		465	476	466	▲10
	(2) 材料費		97	132	138	6
	(3) 経費		148	161	163	2
	(4) 減価償却費		21	23	22	▲1
	(5) その他		1	1	1	0
	2. 医業外費用		26	30	31	1
	(1) 支払利息		1	1	1	0
	(2) その他		26	29	30	1
	経常費用 (B)		757	823	821	▲2
経常損益(A)－(B)＝(C)			▲192	▲107	▲84	23
特 別 損 益	1. 特別利益 (D)		－	－	－	－
	2. 特別損失 (E)		－	－	－	－
	特別損益(D)－(E)＝(F)		－	－	－	－
純損益(C)＋(F)			▲192	▲107	▲84	23

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
累積欠損金		1,241	1,347	1,324	▲23
資 金 不 足 額	流動資産（ア）	▲639	▲743	▲735	8
	流動負債（イ）	154	106	89	▲17
	うち一時借入金	－	－	－	－
	差引(ウ)＝(イ)－(ア)	793	849	824	▲25
経常収支比率(A)/(B)×100 ※		74.6%	87.1%	89.8%	2.7%
医業収支比率 a / c ×100 ※		60.2%	77.8%	78.9%	1.1%
修正医業収支比率 a - b / c ×100 ※		53.9%	68.8%	71.5%	2.7%

※再掲

イ 資本的収支

(単位:百万円)

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
収 入	1. 企業債	27	19	19	0
	2. 他会計負担金	－	－	－	－
	3. 国(道)補助金	－	－	－	－
	4. その他	－	－	－	－
	収入計(A)	27	19	19	0
支 出	1. 建設改良費	27	19	19	0
	2. 企業債償還金	19	18	18	0
	3. その他	－	－	－	－
	支出計(B)	46	38	38	0
差引不足額 (B)－(A)		19	19	19	0

ウ 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

区 分 \ 年 度		令和 4 年度	令和 5 年度		差
		実 績	見 込 ①	実 績 ②	②－①
収益的収支		160	160	160	0
資本的収支		－	－	－	－
合 計		160	160	160	0